

加藤恭子ゼミナール 二十歳の頃

～今だから価値になる～

C 班 大江 岡田 松本

研究動機

「今、好きなことを仕事にしていますか？」というマイナビの調査に対し、

「はい」と答えた割合が僅か 39.8%という現実でした。

そこで私たちは、身近な方で自分の夢や目標を実現し、職業とされている方のお話をお伺いしたいと思い、今回メンバーである松本の叔父であり、パイロットとしてご活躍されている前田勉さんにインタビューさせていただきました。また、昨今の新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、今もなお大打撃を受けている航空業界について興味を持ち、これをきっかけにパイロットという職業に着目しました。

プロフィール

前田 勉さん

1966 年生まれ

1985 年 県立高等学校 卒業

1990 年 慶應大学文学部 卒業

1990 年 日本航空（自社養成枠） 入社

1994 年 ボーイング 747 副操縦士昇格

2005 年 ボーイング 747 機長昇格

2011 年 ジェットスタージャパン

2016年 China Airlines

はじめに ～パイロットになるためには～

パイロットを目指す道として、一般的な方法として二つあります。

その一つ目が、四年制大学を卒業した後、航空会社に自社養成枠で入社し、3~4年働きながら訓練を受けるものです。しかし、航空会社の自社養成枠は、倍率数百倍という狭き門であり、試験を突破することは非常に難しいものとなっています。

前田さんは、こちらの方法で大学卒業後、日本航空に入社されました。

そして二つ目が、航空大学校に入学し、訓練を受け、その後航空会社へ就職するものです。航空大学校とは 1954 年、日本で唯一の国が設置したエアラインパイロット養成機関です。短大、専門学校、大学二年間等を修了した後、航空大学校の受験資格を取得することができます。

きっかけ

前田さんが幼少の頃、日本で今ではプロパガンダ映画だと言われてしまいそうな、戦時中の映画が上映されていました。その中の、数多くの機体を見たことで、飛行機自体に興味が高まったそうです。

また、ラジコンで遊ぶことが多かったため、一般的な子どもより、飛行機に触れる機会が多かったと話されていました。

〈インタビュー内容〉

何か気になることがあったときに、自分の信念と仲間の信念のどちらを優先しますか？という質問に対し、安全性に欠けてなく、実利があるのであれば、「任せるときは任せる、実害がなく円満なら妥協」とおっしゃっていました。前田さん曰く、安全面を統括・指摘するのが機長（リーダー）で、加えて、マルチタスク能力が必要だとおっしゃっていました。

・ 前田さんの座右の銘

Anyone can hold the helm when the sea is calm.

Publius Syrus

『海が静かな時なら、誰でも舵を取ることができる。』

これに補足して、「前田さんは、良い状況で結果を出すのは当たり前で、困難な状況で結果を出すのがプロである」とおっしゃっていました。

・ これから求められる人材

これから求められる人材とは？の質問に対し、前田さんは、高いコミュニケーション能力を有する者だと話されていました。将来、日本社会では、事務処理能力が早いだけでは必要とされないのではないかと、ということです。人間関係をうまく構築し、他人の懐にうまく潜り込む能力が必要だとおっしゃっていました。また、この先、社会に出るときに、他の人にはない新しい視点を持つことも大切だそうです。

・ 新しい視点を持つために

新しい視点を持つために、前田さんは、特に本を読むことだとおっしゃっていました。よく大学生が読むビジネス書だけでなく、文学作品を読むことで、人としての厚みを作り、そこから人とのかかわりが生まれるのだそうです。私たちも取り組みたいと思います。

・ 今の若者に求められるもの

語学力、特に英語力が大切だとおっしゃっていました。英語を学ぶことで、日本人の趣向が含まれていない世界の知見に触れることができるからだそうです。インタビューの中で、前田さんが一番熱を入れてお話されていたことが印象に残っています。

考察

前田さんはインタビュー中に、「今の台湾人は昔の大学生と似ている部分がある」とおっしゃっており、台湾人は日本のカルチャーに大きく影響されているというお話を聞きました。

実際に木村拓哉さん主演のドラマである「グッドラック」という作品を見てパイロットになったという人も少なくないそうで、日本のパイロットにはキムタクのようなハンサムな人がたくさんいるのかと質問されることもあるそうです。

前田さんが大学生の頃は身の回りにある情報が雑誌やラジオ、テレビというように限定されており、今に比べて少なかったため、知りたい、見たい、実際に行きたいという欲が強かったそうです。そのため現在よりも国内だけにはとどらず外国など世界へ飛び出そうという外への興味、関心が旺盛でした。

一方で現在の大学生はインターネットやスマートフォンというとても便利な物を手に入れたことにより、どこにいてもあらゆる情報を手に入れられるようになりました。

便利になったことは事実ですが、その影響により実際に足を運んでどこかへ行ってみたい、経験、体験を積むことが少なくなり、実際に何かをした時のありがたみや成果が得られる機会が減ってしまいました。

ところが近年では日本だけでなく世界的にもグローバル化が進んでおり、世界に目を向ける動きが活発になっています。

先ほどあげた問題点の解決策としましては、若者の海外に対する興味を増やし、海外でやりたいことを見つけるきっかけとして、国を挙げて英語力、国際力を上げられるように留学といった手厚いサポートをたくさん行っていくべきだと私たちなりに考えました。

先ほどもあげた通り、海外に行かなくても良い環境で暮らしている我々にとって、海外でやりたいことがない場合当然興味も出てきません。そこで留学をすることによって海外の良いところを見つけたり、やりたいことを探すきっかけになります。それが結果的に、世界に羽ばたける人材を育てることに繋がるのではないかと思います。